

内なる癒しと因果応報

～心の時代の福音～

2023/2/12

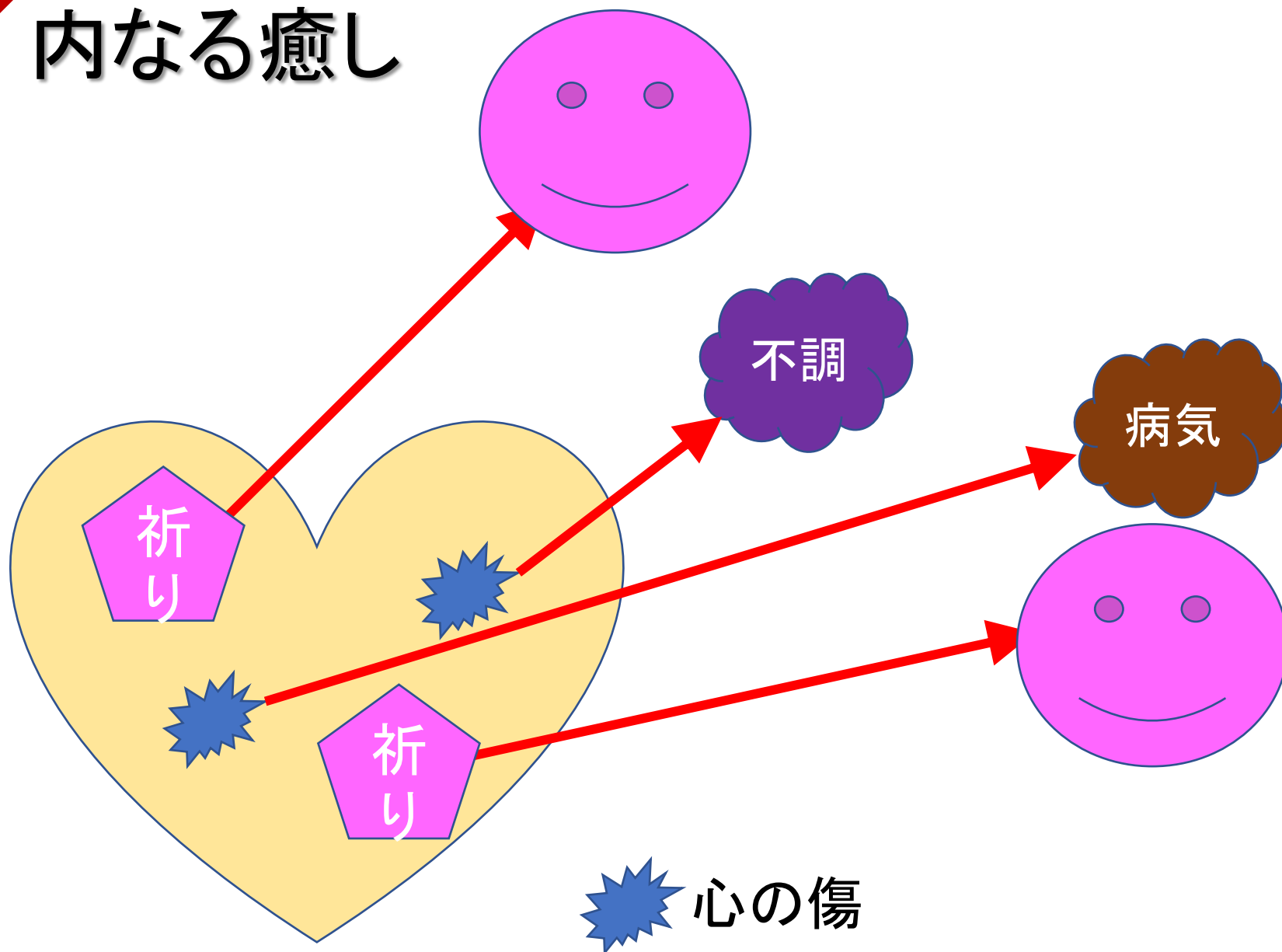
内なる癒し(インナーヒーリング)とは？

- 「心の傷」が癒されることで、様々な病気や不調が改善される、という考え方
 - 心の傷を探して癒やしを祈る
- 前提となっている事柄
 - 心も体のように傷を負う(トラウマ): ○
 - それが原因で病気や不調が起こる: △
 - PTSDなどはその可能性が高い
 - 虐待やいじめが直接の原因となることもある
 - 心の傷らしきものを思い出し、癒されたり、赦したりすることで病気や不調が直る: △ ×

内なる癒しの問題点

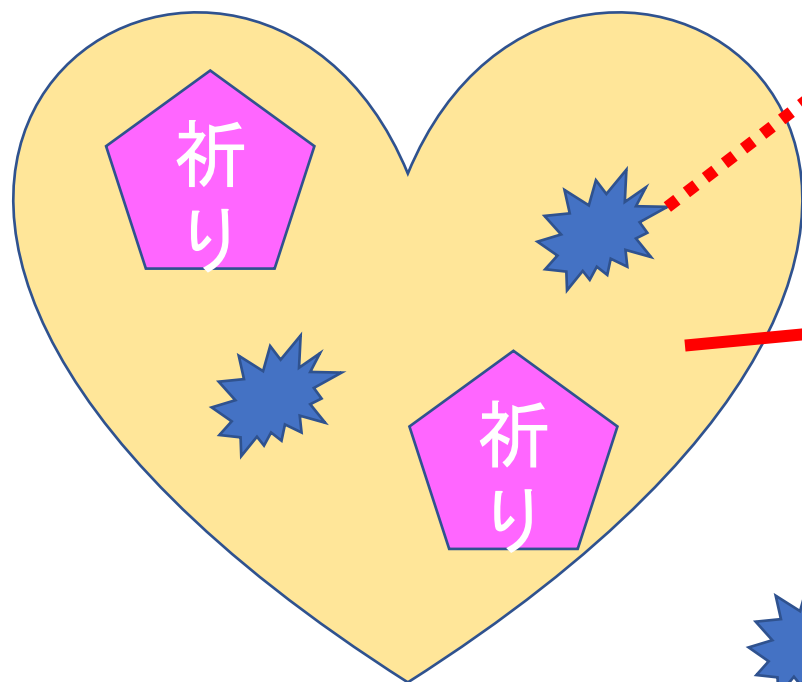
- 心の傷以外の原因を見逃してしまう
 - 心や体の病気や障害などを無視し、すべて心の傷を原因と考えやすい
- あいまいな記憶
 - そもそも人間の記憶は性格ではなく、自分に都合が良いように書き換えられる
- 「墓穴荒らし」
 - 神様は忘れる能力を与えておられるのに…
- 「犯人捜し(作り)」
 - 自分を傷つけた犯人を捜し出し罪人に仕立てる

内なる癒し



内なる癒し

繰り返される不調
自らの信仰を責める



病気

不調

病気

不調

心の傷

背後にある考え方＞因果応報

- 過去の出来事と現在の状態(不幸)を**直接**結びつけること
- 世界中にある考え方だが、日本人は特に強く思っている
- 「供養」という**マインドコントロール**
 - 先祖を供養することが幸福に繋がると信じている
 - 「祟り」や「呪い」を恐れている
 - 統一教会にだまされる前からマインドコントロールを受けている！

ヨブ記と因果応報

- 過去の罪とは関係なく不幸を背負ったヨブ
 - ヨブを妬んだサタンによって財産・家族・健康を奪われた
- 当初は神をうらむことなく受け入れた
 - 「主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ。」
- 3人友人たちによる慰め(口撃)
 - 「考えてみなさい。罪のない人が滅ぼされ／正しい人が絶たれたことがあるかどうか。」4:7
 - 因果応報に基づいてヨブの悔い改めを求めた

因果応報完全否定！

• 神を被告席に立たせたヨブ

- 「正義を秤として量ってもらいたい。神にわたしの潔白を知っていただきたい。」31:6
- 自分は潔白なのだから神の扱いは不当だ
- 実はヨブも因果応報信者だった！

• 神の裁定

- 「これは何者か。知識もないのに、言葉を重ねて／神の経綸（はかりごと）を暗くするとは。」38:2
- 神のなさることを詮索したり非難したりすることは人間の領域を超えている

過去ではなく未来を！

•新因果応報

- 「さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。弟子たちがイエスに尋ねた。『ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。』イエスはお答えになった。『本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。』」ヨハネ福音書9:1-3

過去ではなく未来を！

•新因果応報

- 「さて、イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。弟子たちがイエスに尋ねた。『ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。』イエスはお答えになった。『本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。』」ヨハネ福音書9:1-3

過去  現在 現在 > 未来